1987年(昭和62年)1月31日　土曜日　第2秋田　(20)　朝日新聞

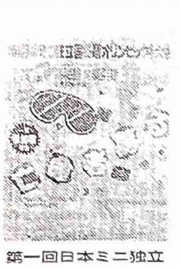
# 来月 西仙北で雪遊びに近い冬季五輪

## ミニ独立国集まれ

## "亡命者"も歓迎

### 交流通し町を活性化

全国の「ミニ独立国」集まれ――刈和野の大綱引きで知られる仙北郡西仙北町で、二月十一、十二の両日、「第一回日本ミニ独立国冬季オリンピックみちのく大会」が開かれる。町内のミニ独立国「カエル村」など、町おこしを進めている町のメンバーが企画した。限りなく雪遊びに近い十三競技を二日間でこなしたあと、出場者は大綱引きにも参加することになっており、全国のミニ独立国との交流を通して町の活性化を図ろうという願いも込められている。ミニ独立国の「国民」でなくても、当日だけ「亡命」して個人で参加するのも大歓迎だ。



第一回日本ミニ独立国冬季オリンピックみちのく大会のポスター

現在、県内の「ミニ独立国」は、カエル村をはじめ、河辺郡雄和町の「ふるさと村」、平鹿郡大森町の「ホジネランド共和国」、男鹿市の「なまはげYOUモー輪村」、雄勝郡雄勝町の「小町の国」の五カ国。全国には岩手県の「吉里吉里国」など約百三十カ国ある。

これらの「国民」を町に呼んで「オリンピック」を開こうと考えたのは、カエル村代表の佐々木正光さん([illegible])。カエル村では昨年、「スノーピラミッド大会」や「なわならではピラミッド大会」などユニークな催しを開いて注目を集めてきたが、今回は町おこしのメンバーと一緒になり、町などの後援も取りつけて、全国に名の届く大会をめざしている。競技の補助員として、西仙北高の生徒が手伝う予定だ。

大会は十一日午後から、刈和野中と西仙北高グラウンドを使って、スノーピラミッド大会、雪上マラソン、人間ボブスレーなど八競技が行われる。中には「マタギ競争」と題して、丸太をかつぎカンジキをはいて雪の中を下るという秋田県ならではの競技も。十二日は刈和野小グラウンドで雪玉射撃大会や寒中相撲大会、宝さがしなど五競技のあと閉会。引き続いて、刈和野町の大綱引きに参加する予定だ。

今のところ参加を予定しているのは、北海道の「サフォークランド士別共和国」や京都府の「チロリン村」、島根県の「いずもオロチ王国」などミニ独立国が十二カ国。このほか秋田県在住のマレーシアや台湾など五カ国の留学生が参加する。個人で参加するには、いずれかの独立国に「亡命」することが必要。実行委の佐藤好攻委員長([illegible])は、「競技は一人だけでも参加できるので、どんどん亡命してきてください」と話している。

申し込みは、西仙北町刈和野二五、カエル村(〇一八七―七五―二六一六)まで。締め切りは二月五日。

秋田さきがけ　昭和62年(1987年)2月12日　木曜日

# ミニ独立国がユニーク"五輪"

## 西仙北町　17カ国が参加　雪の上で熱戦

ユニークな活動で地域おこしに取り組んでいる全国のミニ独立国が集まり、雪国ならではのユーモアとパロディーにあふれた遊びをしようと十一日、仙北郡西仙北町で第一回ミニ独立国冬季オリンピックが開幕した。北は北海道から南は鹿児島県まで十七のミニ独立国のほか、東南アジアやアフリカからの留学生なども含め、参加者は国際色豊かに約百五十人。大会第一日は、二月中旬としては異例の雨に、びしょぬれになりながら八競技に熱戦を展開した。

開会式は正午から、同町刈和野の西仙北高グラウンドで行われた。各国国旗を先頭に、白装束や小町娘風、ナマハゲスタイルなどの民族衣装をまとった選手たちが入場。南国からの参加者は慣れない雪の上の行進だけに、足元が心もとない。

ホスト国秋田かえる村の田村卓さん([illegible])が、雪でつくった聖火台に聖火を運んだ。朝から降り続いた雨でマキにはすっかり水が染み込んだが無事点火。

田村級町長らが歓迎のあいさつを述べた後、みやんじょチクリン村(鹿児島)村長の久木野治さん([illegible])が「南国ならではの競技を精いっぱい楽しみます」と選手宣誓した。

競技の皮切りはミニスキー競走。グラウンドわきの五十メートルの特設コースをどれだけ速く滑り降りるか。安定性のないミニスキーだけに、転倒者が続出、観衆を沸かせたのは雪上マラソン。ハダシ選手は靴下か足袋、ハダシで雪の上を一キロ走らなければならない。しかも、スタートから五十メートルは四つんばいで駆ける。雨で最悪のコースコンディションの中、選手たちはひざまで雪につかりながら足を運んでいた。

鉄砲に見たてたシイタケのホダ木を担ぎ、かんじきを履いてグラウンド中央の山の上からスタートしたのはマタギ競走。途中で拾った封筒には獲物の名前が書いてあるが、獲物のぬいぐるみの前で「もう走れない」と弱音を吐く選手も。

昨年に続いて二回目にな[illegible]は、[illegible]の命を[illegible]マラソン[illegible]研修生ステファン・トムソン・マンジャーラさん([illegible])は、ひとり短靴を履いての参加。靴の中はもちろん水びたし。「冷たいですね」と言いながらも、初めての雪積みを楽しんでいた。破[illegible]が昨年の半分以下、しかも時ならぬ雨を[illegible]しり[illegible]なっていただけに、優勝記録は昨年より一分二〇[illegible]遅い[illegible]にとどまった。

このほか自作そり競走や人間ボブスレーなどユニークな競技に、会場は歓声が絶えなかった。

大会第二日は十二日、刈和野小グラウンドで人間ブルドーザーや雪玉射撃大会など五競技を行った後、閉会式で二日間の大会の幕を閉じる。

ホタ木を担いで雪の中を走る選手たち。履き慣れないかんじきも邪魔？

No.39